

コーディネーター通信

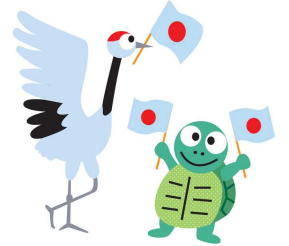
小・中学部用 第20号 平成24年1月10日
三重県立稲葉特別支援学校 特別支援部発行



3学期のスタートです。



新年あけましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしく申し上げます。



皆様方、冬休みは、どのように過ごされたのでしょうか。
体調は大丈夫でしたでしょうか。初夢はどうでしたか。良い夢を見ることはできましたか？

おせち、お雑煮は食べましたか？

初詣にはどこかへでかけましたか？

すごろく、福笑い、羽子板、凧揚げ、こま回し、どんな遊びをしましたか？それとも、寝正月でしたか。

さて3学期が始まります。3学期は1年のまとめの年です。1学期、2学期習ったことを定着させ、更なる発展へつなげていく学期といえます。3ヶ月ありますので、時間は充分にあります。とても楽しみな学期です。

また、小学部6年生と中学部3年生は、卒業を控えた学期となります。もう2ヶ月経てば、卒業式です。

話しは早いですが、小学部保護者の皆様、6年間はどうでしたか、中学部の保護者の皆様、3年間はどうでしたか、色々なことがあった6年間、3年間だと思います。子どもたちも卒業までの2ヶ月を思い残すことなく、充実した学校生活をおくっていただきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。



特別支援学校のセンター的機能とは

平成 17 年に、文部科学省より「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」という答申の中に「特別支援教育のセンター的機能について」として、表1のような期待されるセンター的機能が例示された。

この 10 ヶ月の間、センター的機能として、津市内の小・中学校の教員への支援や研修講師、障がいのある児童への指導・支援、保育園や幼稚園などでの観察・助言を行ってきました。また、福祉機関等との連携や本通信による情報提供を行ってきたのですが、津市内全域を考えると本校のセンター的機能の役割はさらに充実したものにしていく必要があるのではないかと感じられます。本校で行っている専門的な教育をいかに地域の資源として生かしていただくか、今後の大きな課題だといえます。

表1. 特別支援学校のセンター的機能の具体的内容
(文部科学省、平成 17 年)

1. 小・中学校等の教員への支援
2. 特別支援教育等に関する相談・情報提供
3. 障害のある幼児・児童・生徒への指導・支援
4. 福祉・医療・労働の関係機関等との連携・調整
5. 小・中学校等の教員に対する研修協力
6. 障害のある幼児・児童・生徒への施設設備等の提供

表2にあるように、津市の幼児・児童・生徒数は現在約 30,000 人です。135 の園や学校があるのですが、そのすべての支援を稲葉だけで行うことは、かなり困難であると思います。さらに、ここには保育園の数と園生は入っていません。

決してコーディネーター1 人で行っていく問題ではないことがわかります。本校の職員はおおよそ 100 名です。その 100 名の職員で、地域の特別支援教育の下支えをしていくことが求められます。それは、センターとして我々の日々の授業実践や児童・生徒への対応の

集積が、地域の財産となることを意識して、より質の高い特別支援教育を行うことがまずスタートになるのでしょうか。そしてそれら蓄積された財産をニーズに応じて提供していくことがセンター的機能の役割の一つと言えると思います。

表2. 津市の幼児児童生徒数
(平成 23 年 5 月 1 日現在)

幼稚園数 41	幼児 1858 人
小学校数 57	児童 14552 人
中学校数 22	生徒 6949 人
高等学校数 12	生徒 6984 人

※但し、私立高校3校分は入っていない。

※表2の児童生徒数には津市内の特別支援学校の児童生徒数は入っておりません。